

令和6年度 再評価点検表（内部評価）

1 事業概要

事業名	主要地方道 柏原駒ヶ谷千早赤阪線 歩道整備事業	
担当部署	都市整備部 道路室 道路環境課 交通安全施設グループ（連絡先 06-6944-9283）	
事業箇所	柏原市国分西2丁目～旭ヶ丘3丁目	
再評価理由	事業採択後10年間を経過した時点で継続中	
事業目的	本路線は、河内国分駅周辺バリアフリー基本構想において、河内国分駅から高校、大学や商業施設を結ぶ特定道路に指定され、本事業区間の前後区間では歩道整備を行ってきたところであるが、本区間は歩道が未整備であるため、駅から主要施設へ向かう歩行者、自転車が多いにも関わらず交通安全上危険な状態である。このため、歩道の整備を行うことで歩行者等の安全と交通の利便性の向上を図ることを目的とする事業である。	
事業内容	<p>歩道整備</p> <p>延長：L=0.32km</p> <p>（現況）道路幅員：8.0m</p> <p>車道：8.0m</p> <p>（計画）道路幅員：16.0m</p> <p>車道：2車線〔3.0m×2+自転車通行帯1.5m×2〕</p> <p>歩道：両側〔3.5m×2〕</p>	
事業費 （ ）内の数値は 事前評価時点のもの	全体事業費：約9.7億円（約9.0億円）〔国：5.3億円、府：4.4億円〕	
	（内訳）調査費等 約0.5億円（約0.5億円） 用地費 約7.5億円（約7.1億円） 工事費 約1.7億円（約1.4億円）	【工事費の内訳】 ・歩道整備等 約1.7億円（約1.4億円）
事業費の変更理由	・用地補償費及び工事費の精査による増額	
維持管理費	約169万円/年（道路部：33万円/千㎡・年（過去5年府内実績より算出）	

2 事業の必要性等に関する視点

	事前評価時点 H26	再評価時点 R6	変動要因の分析
事業を巡る社会 経済情勢等の変化	当該事業箇所は、河内国分駅と関西福祉科学大学などを結ぶ経路であり、歩行者、自転車の利用も多く、特に朝夕は通勤・通学の多い箇所であるが、歩道がなく歩行者等にとって大変危険な状況である。 【交通事故発生状況】 H22～H25（4年間）：9件 【周辺道路の交通量】 平成22年度全国道路・街路交通情勢調査 自動車交通量：4,527台/12h 自転車交通量：3,190台/日 歩行者交通量：1,714人/日 動力付き二輪車類：348台/日	【交通事故発生状況】 R1～R5（5か年）：11件 【周辺道路の交通量】 令和6年度交通量調査 自動車交通量：6,104台/12h 自転車交通量：379台/日 歩行者交通量：652人/日 動力付き二輪車類：797台/日	・交通量は減少しているものの、交通事故件数については、依然として多く、早急に整備を進め、安全対策を講じる必要がある。
	・交差する都市計画道路田辺旭ヶ丘線の整備（柏原市施工）	・交差する都市計画道路田辺旭ヶ丘線の整備（柏原市施工）	
地元の 協力体制等			

	事前評価時点 H25	再評価時点 R6	変動要因の分析
事業の投資効果 ＜費用便益分析＞ または ＜代替指標＞	交通安全事業における費用便益分析手法は確立されていない。		
事業効果の 定性的分析 (安全・安心、活力、 快適性等の有効性)	<p>【安全・安心】</p> <ul style="list-style-type: none"> 車両と歩行者等の通行を分離することで、歩行者等の安全が確保される。 周辺に小学校があり、児童の安全確保に寄与する。 <p>【快適性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 十分な幅員が確保された歩道の整備により快適性が向上する。 バリアフリー化の推進、歩行者交通等の利便性向上に寄与する。 <p>【受益者】</p> <ul style="list-style-type: none"> 道路利用者 地域住民 		
事業の進捗状況 ＜経過＞ ①事業採択年度 ②事業着工年度 ③完成予定年度	① 平成27年度 ② 平成27年度 ③ 令和6年度	① 平成27年度 ② 平成27年度 ③ 令和13年度	・用地交渉の難航
＜進捗状況＞	—	<ul style="list-style-type: none"> 全体 36% (3.5億円/9.7億円) 調査費等 100% (0.5億円/0.5億円) 用地 39% (2.9億円/7.5億円) 工事 0.6% (0.1億円/1.7億円) 	
事業の必要性等に関する視点	・歩行者の安全安心の確保に資する事業であり、本事業区間においては、依然として、交通事故件数も多いことから、事業の必要性に変化はない。		

3 事業の進捗の見込みの視点

事業の進捗の見込みの視点	<p>令和7～12年度：用地買収 令和9～13年度：歩道整備工事</p> <p>用地取得が難航しており、完成予定年度が当初計画より7年遅れとなる見込みだが、令和14年度の完成を目指す都市計画道路田辺旭ヶ丘線の整備完了を念頭に、引き続き任意交渉を続けるとともに、土地収用法に基づく取得も視野に入れた対応を進め、事業進捗を図る。</p>
--------------	--

4 コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点	<ul style="list-style-type: none"> 工事間土砂流用や再生材の使用により、コスト縮減を図ることとしている。 歩行者等の安全を確保するためには、車両と歩行者等の通行を分離できる歩道整備を行うことが最善策であり、また、都市計画決定している事業であるため、代替案立案等の可能性は極めて低い。以上のことから、原案が適切である。
---------------------	---

5 特記事項

自然環境等への影響とその対策	<ul style="list-style-type: none"> 周辺は市街地が形成されており、本事業による新たな自然環境に与える影響はない。 本路線はバス路線であるため、工事期間中は施工時間等の調整を行い、公共交通に与える影響を最小限に抑える。
事前評価時の意見具申（付帯意見）と府の対応	—
上位計画等	<ul style="list-style-type: none"> 大阪府都市整備中期計画（R3.3改訂）：通学路やバリアフリー経路を重点化区間として位置付け 柏原市バリアフリー基本構想（H31.3）：特定道路として位置付け 柏原市都市計画マスタープラン：国分地域の交通ネットワーク強化のため、本路線の整備を推進、として位置付け
その他特記事項	—

6 評価結果

評価結果	<p>○事業継続</p> <p><判断の理由></p> <p>用地取得について、地元地権者の理解が得られるまで交渉してきたことによる遅延があったものの、</p> <ul style="list-style-type: none">・ 駅へのアクセス道路であり、西側から駅に向かう歩行者等の代替ルートがないこと・ 通学路やバリアフリー基本構想の特定道路に位置付けられているが歩道が未整備であり、危険な状況であること・ 歩道整備を行うことで、歩行者等の安全確保が図られること・ 依然として事故の発生、継続して地元から整備要望があること <p>以上の理由から、事業を継続する。</p>
------	--

令和6年度 再評価(主要地方道 柏原駒ヶ谷千早赤阪線 歩道整備事業)

